H&A brothers × CORPO EDOYASHIKI

コミュニティデザイナーが、団地のためにできること。

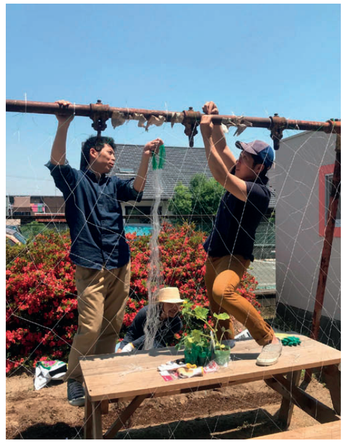
“「半田兄弟」と、コーポ江戸屋敷”

兄は半田啓祐（写真左）、弟は半田満（写真右）、人呼んで「半田兄弟」。彼らはコーポ江戸屋敷のコミュニティデザイナーだ。週に2日コーポ江戸屋敷に通い、私たちスペースRデザインとともにこの団地を住む人たちにとって心豊かな場所にするにはどうすればいいかを考え、カタチにする手伝いをしてくれている。

「大切にしたいのは入居者さんとの関係性。何気ない日々の雑談を通して、僕らは単なる部屋じゃなくて、この人たちが暮らす〝場所〟を作っている、ここで過ごす〝時間〟を管理しているんだと実感しています」。

半田兄弟は私たちスペースRデザインが考えるコーポ江戸屋敷の方向性を入居者さんに伝え、また、入居者さんがコーポ江戸屋敷に望む声をすくいあげて私たちに伝えてくれる。そして、彼らの働きぶりを見た入居者さんがイベントに参加したり、花壇の世話を始めたりと、団地内には少しずつ交流の波紋が広がり始めている。きっとこうして、住んでいる人が安心できる賑わいが育ち、コーポ江戸屋敷ならではの価値になっていく。そのための道筋づくりがコミュニティデザインという仕事なのだ。

「今は僕らがこの役目を担っているけれど、本当は団地内で自発的にひとやコトの動きが成立するのがいちばんいい。これからこの団地に住む人からも、今僕らがやっていることに興味がある人や、自分がやりたいって人が出てきてくれたらうれしいですね。コーポ江戸屋敷は自由度が高く、成功すれば他の団地再生のプロセスにもなり得るような実験的な取り組みにも挑戦できています。前例のないものを創っていく――そういう意味ではコーポ江戸屋敷ってとても久留米らしい団地なのかもしれません。この団地のように、久留米はこれからもずっと、〝こう暮らしたい〟っていうのが実現できるまちであってほしいと思います」。



H&A brothers

半田 啓祐さん／半田 満さん

故郷へのUターンを機に家業の不動産業に携わる。スペースRデザインとタッグを組み、コーポ江戸屋敷のリノベーションにも参加。同社からコミュニティデザイン業務を委託され、コミュニティデザイナーとしてコーポ江戸屋敷のヒト・モノ・コトを結んでいる。2018年、『合同会社H&A brothers』を設立。現在、『Chietsuku,Pjt』『久留米移住計画』など複数のまちづくりプロジェクトに参加中。

いつかは入居者さんの中から
『この役をやりたい！』と
手が上がってくれたらうれしいですね

space R design × CORPO EDOYASHIKI

コーポ江戸屋敷から見えてきた、スペースRデザインの進む道。

“ほしい暮らしは、自分たちで、つくる”

誰もが安心して集い、語らい、
自分たちの暮らしをつくっていける場所。
それが、私たちが思い描くこれからのコーポ江戸屋敷。

Drawing by Manami Miyashita/space R design

コーポ江戸屋敷に関わり始めて3年。上段の「半田兄弟」も語っているように、私たち『スペースRデザイン』は様々なひととタッグを組みながら、パーゴラデッキを作ったり、お祭りを開いたりと、団地再生のためのいくつもの実験的な取り組みを試みてきた。

傍から見ると「そんなことして大丈夫？」とハラハラされるような試みにも、知恵を絞り、めいっぱい汗をかきながらトライした。そして、その結果が不完全であったとしても、疲れよりもチャレンジできるワクワク感が勝っていたのは、コーポ江戸屋敷というこの団地や江戸屋敷というまちの温かな包容力のおかげだったと感じている。

そう、このまちは、地元のひとであれ他所から来たひとであれ、がんばる姿を認めてくれるのだ。チャレンジできるワクワク感、それを認めてくれるまちの気質。コーポ江戸屋敷を通して久留米というまちに、私たち『スペースRデザイン』はすっかり魅了されてしまった。

久留米のひとと考えた地元のいいところ。

コーポ江戸屋敷の将来を考える上で大切なのは、そこに暮らす人々の想い。もっと久留米のことを知ってみたい。久留米の暮らしをより具現化していけば、この舞台に必要なヒト・モノ・コトが見えてくる。

そう考えた私たちは、2018年5月から『くるめぐらし会議』をスタートさせた。これは久留米の人たちが自分たちのまちについて考えて、意見を出し合うトークの時間だ。目的は〝くるめびとらしさ〟とはどんなひとであるか？の確認。そして自分たちも気付いていなかった〝地元のいいところ〟に気付くことにあった。比較対象があると話が進みやすいので「福岡と久留米の違いってなに？」という質問からトークは始まった。すると、だんだんと見えてくるではないか、久留米らしさが！

たとえば、「圧倒的リーダーのいる福岡。横につながっていく久留米」とか「コミュニティや趣味まで準備されている福岡。コミュニティや団体が気軽に産まれやすい久留米」とか。どちらがいいという話ではなくて、これまで捉えられなかった〝まちの正体〟がうっすらと見えてきたのだ。

いつかコーポ江戸屋敷をみんなのまちに。

「久留米はないものを自分たちで作ろうとするよね」、「それぞれ違うことをしていても、いざという時は自然と助け合える関係が久留米らしい」、「仕事と生活が密着しているのも久留米らしさじゃない？」……参加者の意見を聞いて、私たちは無性にワクワクしてきた。自分たちが目指すべき集合住宅づくり、まちづくりの方向性を見つけられたような気がしたのだ。ゴールは遠いが、ひとつだけはっきりしているのは「自分のほしい暮らしは、自分でつくっていこうよ」ということだ。

だからこそ、私たちは今後も暮らしのすぐ近くにワクワクの〝種〟を蒔いていく。団地に住んでいる人はもちろん、団地の外に住んでいる人にも見えるカタチで表現していく。やがてここコーポ江戸屋敷が団地という垣根を越えて誰もが気軽に集まれる、みんなのまちになれるように。私たちの本当のチャレンジはこれからがスタートだ。

Close-Up

コーポ江戸屋敷の
特徴・魅力にクローズアップ。

所在地　：福岡県久留米市江戸屋敷1丁目7
築造年月：昭和53年（1978年）
構造　　：鉄筋コンクリート造4階建
総戸数　：3棟48戸（1棟16戸）

KURUME, FUKUOKA

CORPO EDOYASHIKI, 1978 >> FUTURE

団地だからこそできる。
コーポ江戸屋敷の「つながり方」。

パーゴラデッキから広がる生活の楽しみ。

コーポ江戸屋敷100号棟のいちばん奥に、コンクリート製の建物に無垢の木でできたデッキがくっついている。これだけで無機質でくたびれて見えていた建物の表情が、イキイキと若返ったように感じるから不思議なものだ。

木製のそれは、職人チーム『VOICE』のアイデアで誕生した「パーゴラデッキ」。団地の敷地内で様々なヒト・モノ・コトが楽しくゆるやかにつながり合う、これからのコーポ江戸屋敷を象徴するコミュニティスペースだ。

発案者の『VOICE』の亀崎正吾さんはこう話す。

「パーゴラデッキがあるのは、100号棟と200号棟の間。ちょうど僕らのオフィス『BASE』の前に作りました。ここで僕らが作業やイベントをしていたら、団地に住んでいる人は『お、何かやってるぞ』ってすぐ分かる。気になったら部屋の外から『何やってるんですか？』と声をかけてくれてもいいし、興味が湧いたら遠慮せずに見に来てもらってもかまわない。そうやって、昔の団地みたいに部屋の内と外とでつながり合う懐かしい賑わいが出せたらなって思うんですよ」。

棟上げの時に行った餅まき、夏のそうめん流しや、ご近所さんも集まってくれた小さなお祭り「隣人祭」などなど、誕生してからというもの「パーゴラデッキ」は住人の皆さんにとってもご近所さんにとっても、ちょっとした「何だかおもしろそう」な舞台となった。どうおもしろいのか、ハッキリしていないのもまた魅力。もし住人さんから「私もパーゴラデッキでこんなことがやってみたい！」という声が上がれば、形にできるよう協力したいと亀崎さんは言う。

「住人の皆さんが楽しくなるために作った活動スペースなんだから、皆さんが自主的に活用してくれるのがイチバン嬉しい。どんなアイデアが飛び出すのか、僕らも楽しみにしています。僕らもずっとこのオフィスに常駐しているわけではないけれど、もしオフィスが開いているようだったら、どんどん遊びに来てください」。

確かに、玄関のインターホンを押すのは勇気がいるけど、縁側感覚のパーゴラデッキからなら何だか声もかけやすい。

「このデッキがあることで、住んでいる皆さんの生活の楽しみが、部屋の外にも広がってくれたら何よりです。そのためにもまずは僕らがパーゴラデッキから部屋の外に、どんどん出ていこうと思っています。見かけたら気軽に声をかけてくださいね！」。2018年1月には100号棟西側に緑の小道も開通。入居者さんと一緒に様々なハーブの種を混ぜた「たねダンゴ」をこしらえ、整えた花壇に植えるワークショップも行った。やがて豊かな緑で覆われる小道。その姿を想像するだけでも心が躍る。

Mochi-Maki ～餅まき～

↑「はじめまして。これからどうぞよろしくお願いします！」の思いを込めてパーゴラデッキの完成時に餅まきを決行。団地住人の方はもちろん周辺住民の方々も足を運んでくださった。

Somen-Nagashi ～そうめん流し～

↑『VOICE』のオフィス『BASE』を開放し、パーゴラデッキとつないで竹製のそうめん流し装置を設置。夏の暑い昼下がり、住人の皆さんとそうめんで涼を分かち合う、楽しいひと時だった。

Neighbors Day ～隣人祭～

↑2017年11月にコーポ江戸屋敷のパーゴラデッキ周辺の共用部を舞台に『お江戸屋敷隣人祭』を開催。飲食や小物販売の屋台が集まり、道行くご近所さんたちも気軽に立ち寄ってくださった。

DANCHI IS WONDERFUL!

《入居者さんの声》Sさんご一家

コーポエ戸屋敷は、入居者目線で建物の環境を整えてくださっているのでとても住みやすいです。部屋は風通しが良く夏も涼しく、周りは静かで落ち着きがありますね。西側の小道は子どもを連れてプチ散歩をするのがお気に入り。敷地内の催しは住人さん同士がふれあえるいい機会。家族で参加できる日を楽しみにしています！

THERE IS FUN TO CONNECT HERE!

LET'S ENJOY THE DANCHI!